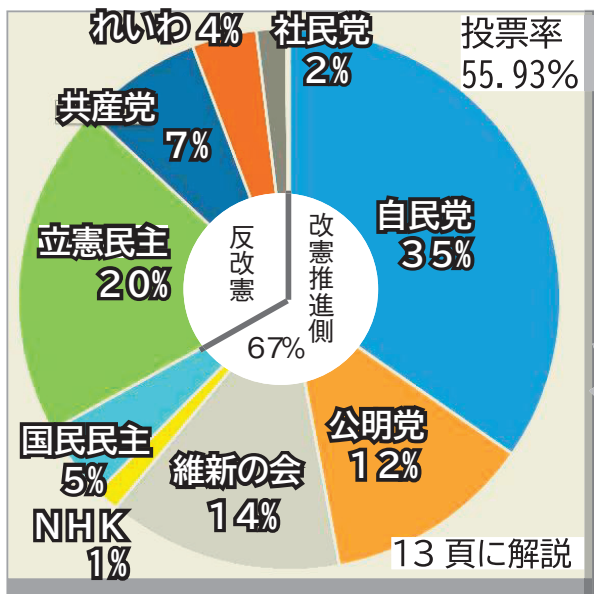


皆んなで選んだ
今月の秀句

2021 総選挙（比例）結果

首相の座投げたとなんに忘れられ
こんなところにまだあったのかアベマスク
総裁選どっちむいても風見鶏

白真弓
寺内徹乗
遠田亀公子



ここからまた始まる。

自民党総裁選、「菅の看板」では勝てないと座を投げた。が、となんに忘れられました。忘れていたアベマスク、部屋の整理で見つかったという。総裁選どっちもどっちだ。（周）

「和」川柳社 10月会報 No.709

定例会2021年10月28日（木）

来月例会案内

11月例会
投稿締切
課題「続」
自由吟
自選句、自解筆もよろしく。

11月25日（木）
22日（月）
3句以内
5句以内

目次

川柳互選・課題吟「風」	2
自由吟	3
ほのぼの川柳	5
連作（一角）	5
川柳連作《川柳ひと言》	6
訃報／瀬戸内寂聴さん	7
高松町史に書かれた鶴彬	10
連載／夢二「東京災難畫信」	12
総選挙結果解説	13
戦争前夜抄《33》	14
メディアの戦争責任	16
編集後記を兼ねて	16

10月の 川柳互選

◆ 点の付け方

推薦句◎…2点、準推薦句○…1点
 ◎3句以内。○全体の半数以内。

◆ 課題吟「風」(互選)

一人 3句以内吐

(投句15人/16人の互選)

3	3	3	3	3	2	2	1	1	1
山生まれ海へと嫁ぎ暴雨風	風は見ず電話片手に風吹かせ	野分立ちポスター貼りの苦心聴き	突風になつて永田町あたり暴れたい	名簿見て電話をいれてなびく風	生き方は古風身なりは今風に	投票率で風向き変えよう総選挙	台風の目になり得るか総選挙	明日は吹け俺の人生風頼み	風車ごとく人いらず文句も言わず働くAI
ひろみ	一角	一角	大峰	一角	尉	未知子	白真弓	北の山	ふさこ

7	7	7	7	6	6	6	5	5	5	4	4	4	4	4
コロナ風に吹かれ大儲けする大資本	米中が世界に起こすつむじ	風の向きばかり気にしていませんか	民の声馬耳東風と聞き流す	コロナ禍で風邪の軽視もままならぬ	新首相令和時代の風見鶏	逆風の海で私の浮き沈み	風雪に茅葺きの家凜と立つ	流行り風邪競うコロナの第六波	風向きが変わるぞ前に舵を切れ	全世界コロナ旋風吹き荒れる	風に聞く硝煙サイレン叫び声	北風に選挙共闘前進へ	風評を真しやかに説いてくれ	台風の目となり政権吹き飛ばせ
大峰	尊柳	ダン吉	尉	宏	尊柳	ダン吉	立東爺	尉	貴公子	尊柳	立東爺	宏	ダン吉	白真弓

7	寒風も瘦せた我が身に加減なし	ひろみ
8	風向きで運命決めた三・一一	撤乗
8	テロ多発アフガンに吹け千の風	宏助
8	風吹けば飛んでいきそな議員たち	撤乗
8	あきらめが無風状態作り出し	撤乗
8	風の浜自決の塚が朽ちて行く	貴公子
9	投票率で風向き変わる総選挙	未知子
9	吹雪の日風よけたったね父の背な	ひろみ
10	そのままで生きてよいのか風の声	宏助
12	故郷の小さき祠風 ほこり に耐え	未知子
14	年金で安息がない向い風	宏助
16	記者会見立つたび向きの変わる風	白真弓
20	総裁選どっちむいても風見鶏	貴公子

◆自由吟（互選）

一人5句以内吐

（投句15人／16人の互選）

1	鳥かこの鳥がようやく放たれた	撤乗
1	悪徳のタツクル男今度は詐欺師に変身か	ふさこ
1	ハイテク兵器小銃に追われ帰米する	白真弓
1	ハローウィン広告業界ドッキングね	宏
1	人々のよりどころなる宗教がすぐ爆発で人殺	ふさこ
1	戦争の臭いしゃぶるかダラ官	一角
2	寿都町中間から永久に金につられ	宏
2	アベスガと岸田氏山の手線内と外	宏
2	新総理の地金をじつと見るドーム	ダン吉
2	オリパラの怨み選挙で取り替える	大峰
3	おせっかい爺婆いてこそ絆が生まる	ふさこ
3	このドラマ決める一票待っている	ダン吉
3	人種差別主義 レイシズム有りや無しやと我に問う	未知子
3	老若の会議突然風変わる	宏助

3	もの忘れ×切日すらも整理不可	宏	5	連合は自民が勝つとうれしいの？	一角
3	川柳でひと時の命を燃やす	宏助	5	巷ゆくマスク美人の多かりき	尉
3	核となる人物いない国家は悲し	ふさこ	5	齡加え流行りの風邪に素直なる	尉
3	秘書二人不起訴に借りを返してみ	大峰	5	閉店をしますが風に千切れそう	ダン吉
3	前総理コロナ専念してますか	ダン吉	5	次世代を育てる気なし詐欺の巢日大	ふさこ
4	傀儡へ派閥ボスへの恩返し	尊柳	5	共闘を進める友に拍手する	一角
4	お釈迦様いじわる遊び蜘蛛の糸	立東爺	5	投票しないから生まれてしまうクソ政治	撤棄
4	「原発廃止は三十年後」グレタに叱られる	未知子	6	反戦を消し去って行く日の丸と君ケ代	大峰
4	ワクチンは光と影の道しるべ	ひろみ	6	結局は逃げ得ですか幹事長	ダン吉
4	国会を火の票弾で埋めてやれ	貴公子	6	学徒出陣ドクロが軍靴履いて征く	白真弓
4	怨念の火種抱えて二千年	立東爺	6	仕事ナシ突然解散何を問う	北の山
4	友個展紅葉いざなう夕張よ	宏	6	大谷は一度の人生二刀流	宏助
4	聞く特攻黒幕だけに活かされる	尊柳	6	海底火山爆発軽石飲んだ魚哀れ	未知子
4	権力者能力もなく国作り	宏助	6	選挙には甘い言葉で票集め	宏助
4	国境の銃眼に見る子の笑顔	立東爺	6	遅れずにきっちり届く税金票	ひろみ
4	日本の名前汚した大学が	一角	6	絆なるもとどのつまりは腐れ縁	尉
5	新総理支持率株価値共に下げ	尊柳	7	卒論もネットコピペで済む時代	立東爺

総裁選失政劇の隠れ蓑

尊柳

一〇〇歳だった隠れて涙母の逝く

ひろみ

硝煙に三本指の差す未来

立東爺

聞く耳は人を選んで開かれる

白真弓

長寿の世所詮薬と検査漬け

尉

人種差別主義
レイシズム大手を振って跋扈する

未知子

牛売れて父上機嫌兄無口

ひろみ

米作って飢える新資本主義

大峰

メモ掲げ聞いているふりしています

撤棄

戦争と死刑国家の犯す人殺し

白真弓

結局は派閥人事に明け暮れる

尊柳

ばんざいで国会閉じる猿芝居

貴公子

中国は脅威と煽り票集め

撤棄

老後とは日々刻々を生きること

尉

候補者に博徒も詐欺師も御座候

大峰

産んだ子を殺した母をただ責める

一角

電話から選挙と詐欺の甘い声

貴公子

12 「化石賞」二年連続大当たり

未知子

14 飢餓の子が涙で話す逃避行

貴公子

14 こんなところにまだあったのかアベマスク

撤棄

14 首相の座投げたとたんに忘れられ

白真弓

ほのぼの川柳

泣いている試合に負けた我が息子

神田鯛

学校のつれも仲間に嬉しいな

神田鯛

算盤の試験受かって嬉しいよ

神田鯛

ウイルスの不気味な静けさ紙面見る

東 爺

投句／連作

「恩人」 岩原一角

70を過ぎて恩人思い出し

自民党校下支部の婦人会

共産党ノ君は正直でよろしい

食のこと通学力バン応援し

自民辞め民主を立てた方故人

川柳連作「岩盤」 遠田亀公子

岩盤の裏でうごめく癌政治

岩盤のヒビから漏れる黒い泥水

岩盤に跳ね返えされている蟻の雄たけび

岩盤の一穴に蟻の通る道を見つけた

血の滲むどろ板活動に耐える草の根

変革のハンマーとなる俺たちの一票

岩盤の割れ目に怒りの大鉈をぶち込め

準備せよつかいハツパがまだ足りぬ

岩盤ある限り差し込まない明日の光よ

岩盤をぶち抜く熱い焼酎をくれ

――
亀公子の《川柳ひと言》

私は一年365日のほとんど毎日飽きもせず海へ行っている。それも朝晩を問わずにである。四季のある日本には当然海にも四季があるので飽きることがない。いつも海を見ながら心と脳を駆け巡ることがらと対話して過ごす短い時間

が大好きだ。

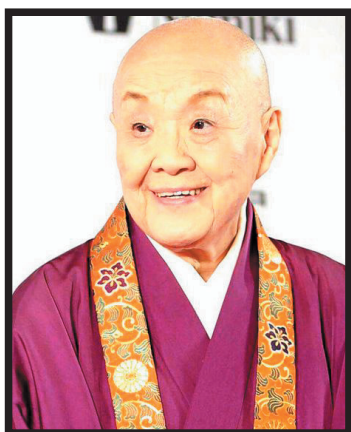
7年ほど前、家の新築にあたり私の母と妻同居する予定の息子家族はアパート暮らしになったが、私は浜小屋で約1年間生活した。ここで何が大変だったかと言えば冬の期間、荒れ狂う時化続きの時は小屋は揺れるし、トタン屋根の雨だれ狂騒曲に悩まされて眠れないし、雪が降れば雪だまりで大通りへ出るにも四苦八苦だし、寒くて寝袋なしには一晩もいられないことが身に染みて分かった。

若い時の鶴彬の好きな句に「暴風と海との恋をみましたか」というのがある。彼の育った家も裏から出れば海はすぐそば。おそらく小さい時から荒れ狂う冬の海の凄さを見てきたと思う。この句に漂うロマンティックな句いは句いとして、彼もまた冬の荒れ狂う日本海を全身に感じていた一人だったことを思い出した時、何か胸の熱くなる気がした。

訃報

瀬戸内寂聴（晴美）さん

瀬戸内寂聴さん、99歳死去 10月体調不良で入院 墓石には「愛した、書いた、祈った」と刻む



小説「夏の終り」などで知られる作家で天台宗の尼僧の瀬戸内寂聴（せとうち・じやくちよう、旧名・瀬戸内晴美Ⅱせとうち・はるみ）さんが9日午前6時3分、心不全のため京都市内の病院で死去した。99歳だった。10月に体調を崩し入院していた。自らの不倫経験

や性愛も包み隠さず著書につづり、流行作家として活躍するさなか、51歳で得度

（出家）。執筆の傍ら尼僧としても精力的に活動し、ユーモラスな法話でも人気を博した。葬儀は近親者のみで営まれ、後日都内で「お別れの会」を開く予定。

人間の業と愛を描き、波乱万丈の人生を駆け抜けた寂聴さんが極楽浄土への旅に出た。

寂聴さんは14年に胆のうがんを患うも回復。しかし、昨年ごろから体調を崩し、コロナ禍の影響もあり京都・嵯峨野に構える自坊「寂庵」を一時的に閉め、同所での法話や写経なども休んでいた。

63年に妻子持ちの年上作家と、かつて家出を決意した年下の男との間で揺れる女性の心理を描いた自伝的小説「夏の終り」が再評価され作家として復活。「かの子撩乱」「美は乱調にあり」などの伝記文学でも、実在した人物をダイナミックに描いた。73年、51歳のときに岩手県の中尊寺で得度し、本名の晴美から法名・寂聴を名乗るように。98年には「源氏物語」全

10巻の現代語訳を完結させ、平成の源氏物語ブームの火付け役となった。

(以上は「スポーツ報知」速報から)

本会報に連載している「戦争前夜抄」でも紹介した若き瀬戸内晴美時代の作品、戦争前夜に起きた多くの権力犯罪を先駆的に記録文学として遺した作品を紹介したい。これらの作品は、まさに現在、戦争前夜と言われてもおかしくない今、もっと読まれてほしい。古書店やメルカリで、安価で手に入るものが多いし、図書館からほとんど借りることができる。彼女の戦争反対、原発廃止の運動の原点はこれらの作品を作る中から培われたと感じます。(周)



◆「かの子撩乱」

岡本太郎の母親。奔放で奇矯な行動と常に噂の絶えることのない

かった男性遍歴、また夫一平との世俗の常識を超えた異常の愛——。岡本かの子は童女か、聖女か。絢爛豪華な文学遺産と多くの伝説を残したまま火のような生涯を閉じたかの子の内面を会心の筆で抉る伝記文学の傑作！

◆「美は乱調にあり——伊藤野枝と大杉栄」



「美はただ乱調にある。諧調は偽りである。」(大杉栄) 瀬戸内寂聴の代表作にして、伊藤野枝を世に知らしめた伝記小説の傑作。出奔しての師・辻潤との生活。『青鞥』の挑戦、大杉栄との出会い、そして日蔭茶屋事件——。野枝、平塚らいてう、神近市子、恋に燃え、闘った、新しい女たちの人生。

◆「青鞥——平塚らいてう」

明治44年、女性だけの雑誌『青鞥』が生まれた。

青鞜

瀬戸内晴美



群像を描く長篇大作。

平塚らいてう、25歳。旧い因習のなかで激しく燃焼した、その誇り高い青春と、『青鞜』にどう生気にみちた女性たちの

◆「遠い声―管野須賀子」

瀬戸内寂聴



天皇暗殺未遂の罪に問われ、幸徳秋水らとともに死刑に処せられた管野須賀子。享年29歳。数奇な生い立ち、社会運動へ

のめざめ、荒畑寒村との結婚、赤旗事件、幸徳との同棲、大逆事件、そして今は獄中に……。己を貫き恋と革命に生きた生涯が、死を目前にした須賀子の胸中に去来する。独白によって描く、渾身の長編伝記小説。

◆「余白の春―金子文子」

瀬戸内晴美



「私は生を肯定する。…生を肯定するが故に、生を脅かそうとする一切の力に対して奮然と叛逆する。」無籍者、虐待、

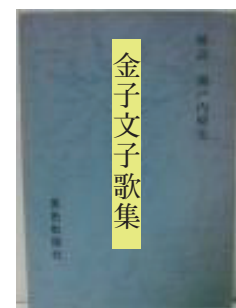
貧困――過酷な境遇にあって、自らの生を全力で生きた金子文子（1903―26）。パートナーの朴烈と大逆罪に問われ、獄中で自殺するまでの23年の生涯を、裁判記録や取材を織り交ぜ描く、不朽の伝記小説

（以上の紹介は出版社の紹介による）

◆金子文子歌集

関東大震災のとき起こされた権力犯罪で自死

金子文子歌集



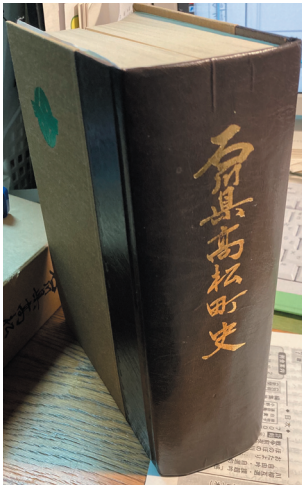
した金子文子の遺した和歌など短詩を収録した歌集。瀬戸内がまとめた。超希少本で古書店でも高額である。

石川県高松町史に記載されている鶴彬の記録

現在、高松町は近隣町と合併し、かほく市高松となっている

戦後、鶴彬はほとんどその存在は世に知られておらず、郷里高松町（現・かほく市高松）でも同様でした。

和川柳社を設立（1955）した岡田一杜さん他多くの川柳人の努力で知られるようになりましたが、現在、鶴彬を直接知る人はおらず、「伝承の人」となっています。そのため明らかなミスや間違った情報もネット上で散見されます。いったんネットに拡散され



違った情報もネット上で散見されます。いったんネットに拡散され



れば、善意や悪意が混在し、間違ったイメージが固定されかねません。

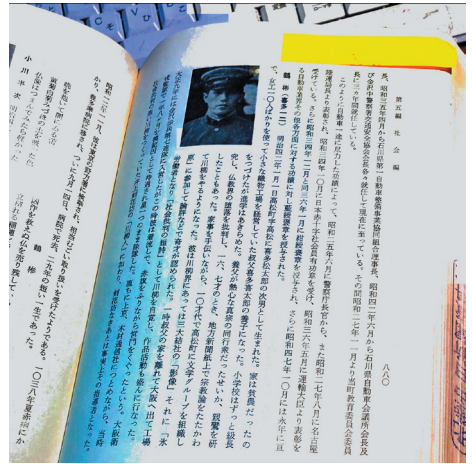
郷里高松では

「鶴彬を顕彰する会」も発足。多くの関連図書や資料が保管されています。

以下に紹介するのは、「高松町史」の掲載された鶴彬についての記述です。

鶴彬（喜多一二） 明治四二年一月一日高松

町字高松に喜多松太郎の次男として生まれた。家は貧農だったため、女工一〇人ばかりを使って小さな織物工場を経営していた叔父喜多喜太郎の養子になった。小学校はずっと級長をつづけたが進学はあきらめた。養父が熱心な真宗の同行



あった。家事を手伝いながら、一〇才代で高松町に文学グループを組織して川柳をやるようになった。彼は川柳界にあつては三大結社の「影像」それに「氷原」に参加して論評などで奇才が認められた。一時叔父の家を離れて大阪へ出て工場労働者となり「社会批判の短詩」として川柳を自覚し、作品活動も盛んに行なった。

大正九年には金沢歩兵第七連隊に入営したがこの時彼は着流しで、赤旗をかりながら営門をくぐったという。大阪衛戍監獄で一年八ヶ月を模範

衆だったせい
か、親鸞を研
究し、仏教界
の墮落を批判
し、一六、七才

のとき、地方
新聞紙上で宗
教論をたたか
わしたことも

囚として待遇され星一つのまま除隊した。直ちに上京、木材通信社につとめながら、当時社会批判の強い川柳をつくっていた井上剣花坊の「川柳人」に加わり、剣花坊なきあとは事実上その指導者となった。

昭和二年一月、彼は東京の野方署に検挙され、相当むごい取り扱いを受けたようである。
(△)一〇三八年夏赤痢にかかり、豊多摩病院に移され、ついに九月一四日、病院で死去、二九年の短い一生であつた。

鶴 彬

暁を抱いて闇にゐる蕾み

凶作を救えぬ仏を売り残している

黄菊白菊みづほの土を吸った色

立枯れる稲穂を踏んで大演習

仏像はつまんでみたら軽かった

枯れ柴よ 団結をして春を待つ

東京災難畫信

竹下夢二

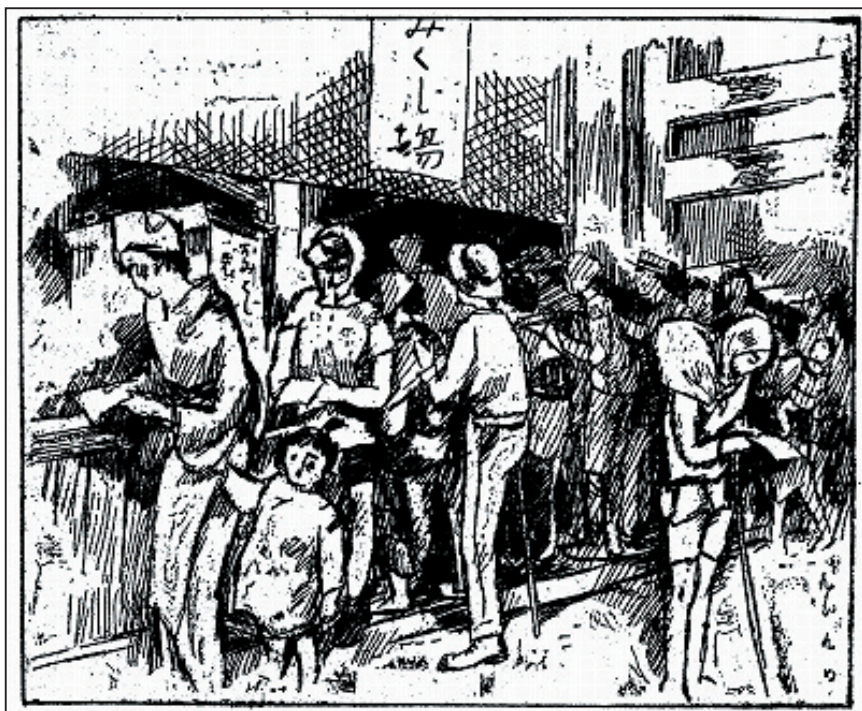
2

浅草観音堂を私は見た。こんなに多くの人達が、こんなに心をこめて禮拜^{らいはい}してゐる光景を、私ははじめて見た。

琴平様や、増上寺や、観音堂が焼残^{やけのこ}ったことには、科学的の理由もあらうが、人間がこんなに自然の惨虐に逢^{ちか}つて智識^{ちしき}の外の大きな何かの力を信じるのを、誰が笑へるでせう。神や佛にすがつてゐる人のあまりに多いのを私は見た。

観音堂の「おみくじ場」に群集して、一片の紙に運命を託さうとしてゐる幾百の人々を私は見た。それは必ずしも日頃神信心を怠らない老人や婦人ばかりではない。白セルの洋服のバンドにローマ字をつけた若い紳士や、パナマ帽子を被つた三十男や、束髪を結つた年頃の娘をも、私は見た。

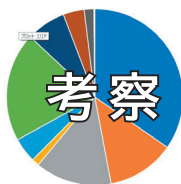
その隣で賣つてゐる、「家内安全」「身代隆盛」加護の御符の方が賣行が悪いのを、私は見た。この人達には、もはや家内も身代もないのであらう。今はただお御籤によつて、明日の命を占つてゐるのを私は見た。



都新聞 大正十二年九月十五日 土曜日

戦争前夜の竹下夢二は昨年の会報9月号、11月号参照委

第49回衆議院選挙について



選挙前は自民党の大敗北を予感された方多いのではないか。

モリカケ桜に象徴される自公政権にうんざりで野党共闘も成立。報道の雰囲気もそうだった。

ところが結果はご存知のとおり。自民党が単独安定多数を確保。維新が議席を増やし、野党共闘の成果もイマイチ。さらに国民民主党と維新が改憲審議加速で合意。改憲勢力が2/3を越え、憲法改正議論の加速が懸念される。

全国党派別比例の得票

自民党	19914883	35 %
公明党	7114282	12 %
維新の会	8050830	14 %
NHK	796788	1 %
国民民主党	2593396	5 %
立憲民主党	11492094	20 %
共産党	4166076	7 %
れいわ	2215648	4 %
社民党	1018588	2 %
諸派	96773	0 %
合計	57459358	100%
	(投票率 55.93%)	

野党の側をみると、立憲民主党の責任が大きい。「連合」から

の牽制、保守側から「立憲共産党」と揶揄されて腰が引け、毅然とした態度をとれていなかった。選挙結果に様々な評価があるが、ある評論に注目した。元朝日新聞記者の鮫島浩さん。

「立憲民主党の枝野氏が共産党やれいわ新選組に一方的に譲歩を迫る「身勝手な野党共闘」で自滅した。〈右の維新〉vs〈左のれいわ〉が日本政界の新しい対立軸だ！ 自民vs立憲の二大政党時代の終焉を告げた」と総括し、「山本氏は今回の衆院選で「自民党より危ないのは維新」と公言し、維新を「最大の敵」に掲げたことだ。これは政界の先行きを見通す慧眼だと私は思う。「維新の新自由主義」vs「れいわの弱者救済」は、対立軸があいまいだった従来の「自民党vs立憲民主党」の構図よりもはるかにインパクトがあり、今後の政界の対立軸の中心となるだろう。（ジャーナリスト

鮫島浩 SAMEJIMA TIMES)

(周)

連載

戦争前夜抄

33

周立東爺

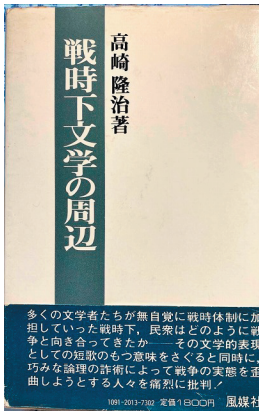
メディアの戦争責任 ≪1≫

報道や文学の周辺を探る

このコーナー「戦争前夜抄」も連載33回を数えることになる。最初は「戦争を描かないプロレタリア文学運動の盲点」と表題を付けて連載を開始したが、14回目で現在の「戦争前夜抄」と改題した。

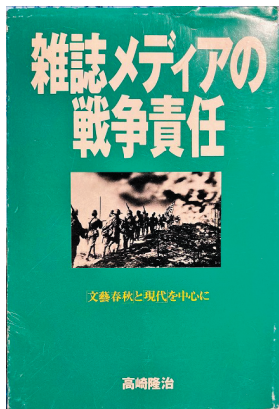
この連載を始めるきっかけは、高橋隆治著『戦時下文学の周辺』（風媒社）という著書であった。著者は1925年生まれ、学徒動員で兵役の経験もあり、次のように書く。（No.672で紹介 2018・9）

「あの戦争を侵略戦だと知らなかったとは、戦前、戦中世代のだれもが口にする言葉だが、それは「知らなかった」のでは



なく「知ろうとしなかった」だけである。

私は何度でもくりかえすが、「知ろうとしない」とはかくも重大な結果を招くものである。もっとも、日本のプロレタリア文学は、小作争議や労働争議をテーマにしたものがほとんどで、反軍・反戦を主題にした作品は意外なほど少数だし、ストリートに反戦に結びつくプロレタリア文学はこの時期にはもはやまったく影をひそめてしまっている。なぜなら、十五年戦争は『蟹工船』が売られていた昭和十五年よりも九年も前に開始されているからである。つまり反戦・反軍を直接の主題とした小説が書かれるとした、もっと以前、プロレタリア文学



高橋隆治 (1925 - 2013) 横浜市出身。法政大学文学部在学中に学徒兵を体験する。日本ペンクラブ会員。講談社昭和万葉集編纂顧問。著書に『戦争文学通信』『戦時下文学の周辺』（以上、風媒社）、『ペンと戦争』（成甲書房）、『文学の中の朝鮮人像』（青弓社）など。

最盛期の昭和四、五年でなければ遅すぎたのである。」
そして、当時の出征兵士の戦場からの川柳を紹介している。皮肉なことにプロレタリア文学は戦争を描かず、出征兵士がリアルな戦場をぎりぎりの表現で戦場の姿を本国の柳誌に書き送っていた。

南京は陥ちても支那は生きている

左門

号外にまた捷^かったなど馴^なれている

小杉白秋

長期戦神社このごろよく儲け

川村日満子

生きていればまた来る花の春がある

河野幸坊

童子死ねり浅き散兵壕に寄り

片山桃史

憎しみもなく首を打つ日寒く

宮本朱明

味方死ねば敵も死ぬ冬霧寒く

黒沢 清

餓じさは敵も見方も霜きびし

杉響

兵去りて屠牛寒風にさらされる

大藪時雄

略図かく砂地北風吹きまくる

間方三方太

戦ひの下けふも生きて凍飯食ひにけり

平野北斗

馬立たず軍列雪に消ゆるなり

小西潮風

新聞や雑誌などを総動員

軍国日本権力は、いかに国民を思想動員するかが大

きな課題だった。前号の半藤一利さんの遺言「墨子を読みなさい」で筆者が現在なら墨子にあたるのは新聞記者かもしれないと考え紹介した「桐生悠々^{きりゆうゆう}」であるが、桐生悠々は当時では希有な存在であった。

関東軍は南京攻略戦で国際的批判を受けた。海外からの批判をかわすため、日本の作家を動員し国民の洗脳のため「ペン部隊」を組織することになる。著名な作家が戦場に行き厳しい制限付きで戦場を描いた。

ペン部隊には菊池寛を筆頭に初回芥川賞作家・石川達三、火野正平、吉川英治、岸田國士、深田久弥、林芙美子、佐藤春夫、吉屋信子など一線の作家三十数名が参加していた。ペン部隊に参加せずとも金沢市出身の室生犀星（全集には載せていない）や「橋のない川」の住井すゑも戦争協力の作品を書いている。当時の雑誌や新聞、メディアも競って戦争を煽った。

冒頭紹介した高橋隆治は『雑誌メディアの戦争責任』という著書を著している。

当時総合雑誌は、『文藝春秋』『改造』『中央公論』。婦人雑誌では『婦人公論』などがある。（つづく）

編集後記を兼ねて

▼大変遅くな
ってしまいました

た。相変わらずパソコンの意地悪です。▼コロナ禍の中、9月には鶴彬顕彰のイベントも終りました。鶴彬川柳大賞には同人から3人が推薦句に入選しました（一角、未知子、ふさこ）。選者には岩佐ダン吉さん、遠田亀公

「鶴彬を顕彰する会」の通信「はばたき」の購読をおすすめします。購読・3000円です。

11月例会ご案内（毎月第4木曜日）

◆例会 11月25日（木）◆投稿×切22日（月）

◆課題「**続**」3句以内 ◆自由吟5句以内

◆自選吟、連作、エッセイ、川柳論などもよろしく。

◆**コロナ禍中で例会は誌上となります。**

●投稿FAX (076) 254-0762

●メールアドレスは下段に。

郵送は
下段住所へ。

発送に協力いただいています。

▼《食育のグリーンノート&土の音工房》オカリナ制作・上村彰

子さん。お疲れ様でした。▼川柳大賞の報告集『入選の栞』作りの手伝いをしました。なかなか大変でした。▼この冊子、6名の



審査員がそれぞれ自分の選んだ句の解説をされていて、大変参考になります。

す。一冊200円です。希望者は連絡を下さい。▼今年一年間に会報に掲載されたすべての句を今まとめています。11月の会報も急がなくては。では。（周）

「和川柳社」会報
会員募集しています！

同人：4000円 / 年
投句 / 購読：2000円 / 年
★会報の他に、関連資料などもお送りします。

和川柳社 〒920-0335 金沢市金石東2丁目15-30 (3-2) (渡辺 寛)

電話 FAX：076-254-0762 PC-mail：kananabe@popolo.org

携帯：090-9445-1302 携帯 mail：kan-wata@i.softbank.jp

振込先：北國銀行中央市場支店 #191 普通 640 「和川柳社」